

## 情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年7月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油の出荷量は前年同月比減少したが、4月～6月の累計では同期をやや上回っている。
	パン・菓子製造業	昨年に比べ売上高はやや減少している。夏菓子の土用餅の普及に努力を行っている。
繊維・同製品	その他の織物業	多品種・少ロット・短納期製品が続いている影響から生産効率が低下し、受注状況も減少している。このような厳しい状況が続く中、伸ばせる分野を模索する等前向きに実行に移す組合員もいる一方で、休業に近い状況の企業もあり、産地として深刻な事態となっている。
	織物業	絹分野では海外激安製品の圧迫と国内消費の低迷により多品種・極少ロットの発注に終始し、生糸の国際相場が大幅に下落し、先が見えず、加えて精練などの加工に必要な燃料、油類の高騰が続き、原料・加工コスト高、製品安の状態に陥り、過去幾多の困難にも増して、厳しい状況で推移している。
	ねん糸製造業	原油の高騰による合繊原料の高止まり等により輸入系の調整が出てきた。あまり国内系が高くつければ海外からの輸入に頼る商社もある。現在の主流は各種スポーツ衣料となっている。
	ニット生地製造業	市場を牽引する売れ筋が見当たらない。典型的な季節商品の生産が終了し、夏物も売れなかった影響から、通常盆前まで忙しいのだが、今年は早くも陰りが見られる。
	その他の織物業	7月度は、昨年同月に比べ18%の売上減となった。年初来、売上減少が続いているが、現状では回復の兆しは見られない。当面、この厳しい状況が継続すると考えられる。昨年の売上減から更なる売上減少へと進んでおり、組合員の経営にも重大な影響を及ぼしそうである。
	木材・木製品	製材業、木製品製造業
製材業、木製品製造業		7月度は、前月に引き続き材料の高騰が止まらず、売価への転嫁がままならず苦戦を強いられている。特に合板関係の値上がり激しい。このような状況下であっても仕事量は好調ではあるが、今回の価格変動は前例が無く対処が非常に厳しいものになっている。
窯業・土石製品	砕石製造業	7月の組合取扱出荷量は対前年同月比アスファルト合材向け出荷が5.5%増加となったものの、生コン向け出荷が17.4%減少し、全体出荷量でも15%の減少となった。第一四半期が対前年同期に比べ10%増と好調に推移していたが、工事の需要が終盤に入り、下支えしきれなくなったのが減少の一因に挙げられる。
	陶磁器・同関連製品製造業	9月12、13日に開催される第13回九谷焼産地大見本市の準備を進めている。2年に1度産地で行うイベントなので期待をしている。
	生コンクリート製造業	7月度の県内の生コンクリートの出荷状況は、前年同月比79.9%と大幅なマイナスの出荷量となった。地区別では南加賀、羽咋・鹿島地区がプラスとなったものの、金沢、鶴来・白峰、七尾、能登地区はマイナスで推移した。官公需、民需では官公需が相変わらず厳しく前年同月比72.3%、民需も前年同月比85.0%とマイナスで推移した。生コンクリート出荷量の先行きは大変厳しい状況になるのではと心配している。
	粘土かわら製造業	7月は天候が悪く葺替え工事が出来ず前年比10%のマイナスとなった。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	各社の増設等の建蔽率が限界のところまで来ている。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月と同様で特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	業況を生産量から見ると、上半期(1～6月)を見る限りここ数年の中で最も多く、前年対比では13%強増と順調に推移してきている。しかし、原油の高騰の影響により、鑄造資材等の値上がりが厳しく、企業経営に著しく影響している。一方、企業格差はあるものの受注に多少の陰りが見えてきている。
	鉄素形材製造業	景況は順調に推移している。前年同月と比べても特に著しい変化は見られない。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年7月分)

一般機器	繊維機械製造業	機械部品加工の受注は、繊維機械、工作機械、建設機械、その他産業機械向けいずれも好調が続いている。
	プレス、工作機械	当組合企業の一部では設備投資、中国人研修生を含む従業員の補充も完了し、生産能力がアップしたが、早くも組員同士で受注獲得競争が始まった。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	昨年同期とほぼ同じ傾向にあるが、公共事業関連は昨年に比べ低調傾向にある。
	機械金属、機械器具の製造	設備関連機械の部品加工を主とする当工業団地の各工場はフル稼働に近い状況が続いている。更に生産能力増強を目指す工場の増設も数社行っており、それに伴う人員の増強も続いている。このような状況は暫く続きそうである。
その他の製造業	漆器製造業	7月期は業界の閑散期であるが、聞き取り調査の結果では昨年対比売上高は増減各社まだら模様であった。また各カタログ更新の時期であり販売額増の期待の中、木製カタログは昨年対比10%の増加を見せた。全体としては下げ止まりの傾向にあるように感じる。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	売上高の減少と業界の景況が悪化したまま動いていない。活性化策など見出せないままである。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高は7月もやや増加となっている。ようやく減少が止まったのか今後の推移を注視していきたい。
	一般機械器具卸売業	住宅関連も箱物(中小のビル、マンション、工場)も動きがあり、7月にしてはまずまずの数字であったが、天候不順でエアコンの売上がはっきりせず、全体としては未達成であった。当業界は季節要因で左右される事が多く難しい業界である。その他石油の高騰から電線の価格の急騰、諸材料の値上げと厳しい状況が続いている。
小売業	燃料小売業	7月は梅雨明けが遅く天候不順で売上も減少であった。さらに局地的価格競争の勃発から安値が広範囲に連鎖し、利益をますます圧迫する厳しい経営が続いている。8月はかつてないほどの値上げになると予想される。
	機械器具小売業	7月度は、天候不順による夏物商品の絶不調(特にルームエアコン)により、残念ながら伸び率は前年同期に比べ90%を下回ったと思われる。
	野菜・果実小売業	7月は産地の日照不足や大雨の影響から一部の品目が品薄傾向となり、価格が平年より上回った。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	7月中旬まで夏物肌着、靴下、軽衣料の売上は順調であったが、後半は天候不順の影響により前年同月比97.8%で推移した。
	鮮魚小売業	先月末で底曳漁が終わって、月初から月中までは入荷量が少なく市場も静かに推移した。梅雨入りから急激な暑さが始まり売行きもあまりかんばしい状況ではなかった。月中から月末においては入荷量も回復してきて通常に戻った感がある。土用の丑の日前後はやや活気が感じられた。
	他に分類されない その他の小売業	7月中旬までは順調に前年を越える売上であったが、3連休以降客足も売上も昨年並みとなった。
	百貨店・総合スーパー	7月の売上は、予算比96.1%、前年比100%と数字的には前年並みであったが、店舗別では良い店と悪い店の差が出た月であった。前年値クリア店舗は半数あったにもかかわらず、10%以上落とした店舗は3割をしめた。時期的に見ると大雨が続いた時は売上が良くなかった。
	米穀類小売業	米の消費は全世帯一人当たりの消費量が前年同月0.4%上回っている。小売店も多少米の動きを感じているようである。
商店街	近江町市場	梅雨明けが遅れているので売上は沈滞気味である。8月は子供祭り等のイベントで集客力を高めたい。
	尾張町商店街	体にカビが生えるのではないかと感じるほどに雨が続いた。水害まで発生し休日におちおち外出する人も見かけない有様なのに、何故か売上はそれほどまでに落ち込んでいない。例年並みをキープする不思議さに首をかしげている。

非  
製  
造

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年7月分)

業	サービス業	旅館、ホテル	売上高は前年に比べ増加しているが、石油価格の高騰により仕入等に大きく影響が出ており、収益を圧迫している状況となっている。
		旅館、ホテル	長雨や大雨の影響から風評的なキャンセルが相次いだ。
		自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比0.7%増、前月比3.8%減となった。新規検査状況は、前年同月比4.4%減、前月比4.7%減となった。
		旅館、ホテル	売上は全体的に増加しているものの消費額は停滞している。景気回復の実感が感じられない。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比8.6%増となった。内訳は民間土木46.6%増、民間建築78.5%増となり、民間全体では73.9%増となった。公共土木は19.2%減、公共建築は64.3%減となり公共全体では35%減となった。公共に関しては厳しい状況が続いている。
		一般土木建築工事業	大企業の業績は改善されており、それに伴う国内の景況も改善されていると言われているが、中小企業の業績はまだまだである。公共事業の急激な冷え込みによる工事量の減少に伴い、業者間の受注競争の激化が悪循環をもたらしている。その他新規産業への進出も検討するが、資金不足等厳しい状況である。
		板金・金物工事業	組合員には従来、仕事は大工、工務店より自然に舞い込むシステムだとの感触だったが、ハウスメーカーの進出は「営業力」の有る者が優位に立つ社会となりつつある。時代の流れに対応出来ない者は廃業に追い込まれる社会となりつつある。一方、石油の値上がりにつながり、それを吸収出来ない者も廃業につながりつつある。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	8月に軽油価格の値上げ要請があったが、これだけ値上がりしても運賃転嫁は進んでいない。適正な運賃収受が出来なければ、トラック運送を取り巻く環境と課題が山積の中、倒産廃業が増加するであろう。
		一般乗用旅客自動車運送業	北陸地方の景気動向が依然としてはっきりしないことに加え、近年の急激な増車が影響してタクシー事業各社の輸送回数、運送収入とも前年同期を下回る傾向は止まっていない。梅雨が明け、夏休みの行楽シーズンを迎える事から、遠来の環境客の入り込みに密かに期待を寄せているが、燃料費の一段の高騰が水を差しかねない状況にある。
		一般貨物自動車運送業	売上高は減少傾向にある。軽油の価格も上昇し取引条件も好転しておらず、景気の回復を感じる事が出来ない。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等